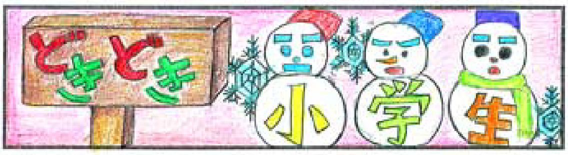
NIE特集
Newspaper In Education
毎月第２・４火曜日発行



北仙台小

学校名　仙台市立北仙台小学校
所在地　仙台市青葉区東勝山３の６の１
電　話　022（271）6411
校　長　菅原潤一郎
児　童　473人

戦争体験を聞き、学ぶ！

食べ物がなくて大変

知り隊

私たちは、総合的な学習の時間に「十二歳のチャレンジ～新しい自分へ～」をテーマに、出会いを通してさまざまなことを学んでいます。社会や国語の時間に、戦争について学ぶ機会が多くなりました。今回は町内会長の花渕誠之助さんの紹介で、沖縄で戦ったことがあるという結城元行さんにお会いし、戦争の苦しい体験や平和への思いを直接伺うことができました。

結城さんは今、86歳で元の町内会長さんです。山形県の出身で、今は私たちの通う北仙台小の近くに住んでいらっしゃいます。

花渕さん（前列左）と結城さん（同右）を囲んで

人間の欲 悲劇を生む

私たちは、戦争はこわいものと考えていましたが、結城さんは「国のために戦うという気持ちから、17歳で志願して軍隊に入った。戦争に行ったのは19歳だったが、こわいという思いはなかった」と話してくださいました。戦争とはこわいものと思っていた私たちの考えとは違っていて、驚きました。

戦った場所は沖縄で、「多くのアメリカ兵と戦った」と言います。アメリカの国と戦争したことが、私たちには信じられませんでした。

お話の中で印象深かったことは、食べ物がなくて大変だったことです。「雑草やネズミやヘビまで食べた」そうです。また、夜は、くつをはいたまま、服も着たままで地面に横になって寝ていました。今の私たちの生活からは想像ができませんでした。

昭和20（1945）年8月15日は終戦の日ですが、結城さんは、戦争が終わったことをすぐには知りませんでした。その日から敵の攻撃がなくなりました。でも、戦争が終わってからも食べる物がない状態がずっと続いたということです。

戦争が終われば平和になる、と思っていた私たちは、戦後も苦しい時代があったことを実感し、そして戦争で亡くなった人の家族は今も心の中で苦しんでいることを知りました。

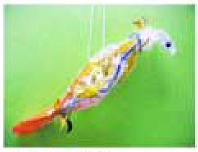
私たちは、戦争は絶対にしてはいけないことを学びました。「戦争は人の欲から生まれる。そのだれかのほんの少しの欲で多くの人が死ぬ戦いになってしまう。そうして、何の関係もない民間人が犠牲になってしまう」と結城さんは、私たちに伝えてくれました。

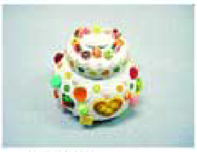
◇　◇

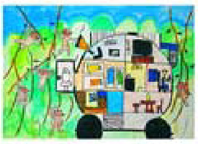
戦争をしてもだれも幸福にはならないことを、今度は私たちが伝えていく番だと思いました。

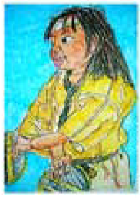
文・田中真美子、伊東大地、遠藤瑛理香、渡辺彩華、榛野亜未（6年）

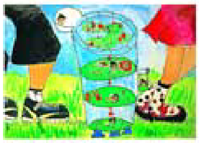
うきうきキャンバス

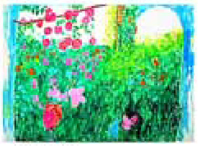

きれいなとり
１年・辻野一馬


ケーキの貯金箱
２年・成田空美


ジャングルの中を走る
かいぞうボール
３年・有賀一揮


すずめおどり
４年・舟山涼貴


妖精の住む宝石アパート
５年・平野萌流


夢の花畑
６年・豊嶋理央子

教え隊　校内に貝の化石

500万年前 海の底

学校の西側にある地層

私たちの学校には、校庭の西側に何層にも積み重なった地層があり、貝の化石が出てきます。遠い昔、この地は海でした。500万年前の時代のものと考えられています。この地層は、竜の口層と呼ばれています。

私たちは、６年生の理科の授業で地層や貝の化石について、校内で本物の地層を観察しながら学ぶことができます。貝の形や地層などから、この土地はどんな土地だったかを教えてくれます。この地層が、私たちの学校の自慢です。

文・田中真美子、杉目愛理（６年）

言い隊

■水の森公園に来てね■

私たちの学校のとなりには、水の森公園があります。水量豊かな池があり、アカマツが囲んでいます。春はヤマザクラが咲きます。

私たちの学校では、低学年は校外学習や生活科の勉強で、中・高学年は自然観察や総合的な学習の時間などで利用していて、とても身近な公園です。3年生のとき、どんな木や花があるかという自然調べをした後で、みんなでお弁当を食べたことが、私にとって水の森公園での一番の思い出です。

地域の方々も散歩やウオーキングなどで水の森公園を利用しています。みなさんも水の森公園の自然を楽しみに一度来てみませんか。

（6年・二唐夏帆）

■団結力強めた長なわ■

昨年12月7日、運動委員会が企画した初めての長なわ大会が、太陽の時間（業間）に行われました。

大会前の休み時間、校庭でクラスごとに集まって練習をしました。1年生には上級生が長なわを持って来て回し、どんどん上手になりました。

ルールは、3分間に何回跳ぶかを競うものです。ひっかからずに跳ぶのが大変でした。男子も女子も協力し合い、みんなで応援し、励まし合って跳びました。僕のクラスは、全校で3位になりました。

みんなの団結力が深められます。みなさんの学校でもやってみませんか。

（6年・成田一真）

編集後記

私たちはふだん、新聞委員会で活動し、学校新聞を発行しています。新聞を作っているうちにだんだん新聞記者にあこがれるようになりました。そんなとき、「どきどき小学生」の話を提案され、これは良い機会だと思い取り組みました。

戦争についてのお話は、戦争の体験をしていない私たちにも恐怖を感じさせました。そして戦争をしてはいけないとあらためて強く感じました。

今回の取材を通して、直接お話を伺うことの大切さを学びました。みなさんも、身の回りの人を取材してみませんか。

〈編集委員〉田中真美子、伊東大地、遠藤瑛理香、二唐夏帆、杉目愛理、榛野亜未、成田一真、渡辺彩華（6年）
題字デザイン　金塚初葉（6年）
〈指導教諭〉高橋知歌子、高橋清、中谷天佐江

次回（２月８日）は、中野小（仙台市）と新田小（登米市）です。